

# 中間検査チェックシート A表(集団規定等)

※工事監理者は、太枠内のみ記入すること

		確認済証番号		第 号		
		確認年月日		年 月 日		
検査項目		照 合 内 容		工事監理者	検査記録	
					A:目視検査 B:実測検査 C:監理者報告	結果
1	確認の表示 (法第 89 条)	ア	表示の有無、表示内容の適否		A : B : C	適・否
2	敷地の安全性 (法第 19 条)	ア	がけ、擁壁等の安全性		A : B : C	適・否
3	敷地と道路との関係 (法第 42 条及び第 43 条)	ア	道路の幅員		A : B : C	適・否
		イ	道路に接する敷地の長さ		A : B : C	適・否
		ウ	法第 42 条第 2 項道路の後退		A : B : C	適・否
		エ	法第 43 条許可との整合		A : B : C	適・否
4	敷地形状及び建物配置等 (法第 52 条～第 54 条の 2)	ア	敷地の形状等(敷地の形・境界ポ イント及び高低差等)		A : B : C	適・否
		イ	建物の配置(道路・隣地境界からの寸法距離)		A : B : C	適・否
		ウ	既存建物の有無(建蔽率、容積率等)		A : B : C	適・否
5	斜線制限 (法第 56 条及び第 56 条の 2)	ア	建築確認図書の立面図、断面図との整合		A : B : C	適・否
		イ	道路からの後退距離等		A : B : C	適・否
			(道路との高低差、緩和範囲内の門・塀等の高さ等)			
			隣地からの後退距離			
エ	北側敷地との高低差、配置寸法等		A : B : C	適・否		
6	工事現場の 危害防止 (法第 90 条)	ア	仮囲い等の設置状況		A : B : C	適・否
		イ	危害防止措置(根切りによる転倒防止等)		A : B : C	適・否
		ウ	その他		A : B : C	適・否
7	そ の 他	ア			A : B : C	適・否
		イ			A : B : C	適・否
※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。 なお、否となった事項については、それに対する措置等を下記に記入すること。						
工事監理者への 指摘事項等		中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名(検査立会者)

# 中間検査チェックシート B表(基礎工程)

※工事監理者は、太枠内のみ記入すること

検査項目	照 合 内 容		工事監理者	検 査 記 録				
				A : 目視検査 B : 実測検査 C : 監理者報告	結果	修正		
1	基礎概要	ア	種別の確認(独立、連続、ベタ、杭、地盤改良等)		A : B : C	適・否		
		イ	支持地盤の確認		A : B : C	適・否		
2	使用材料	ア	鋼材の種類		A : B : C	適・否		
		イ	コンクリートの種類、配合		A : B : C	適・否		
3※	基礎構造体の確認	ア	形状・寸法		A : B : C	適・否		
		イ	鉄筋の径、本数、配置等		A : B : C	適・否		
		ウ	継手の位置、定着長さ、補強筋の緊結(フック)等		A : B : C	適・否		
		エ	かぶり厚		A : B : C	適・否		
		オ	耐圧版の厚さ		A : B : C	適・否		
4※	基礎構造体の確認	ア	全体形状及び部材配置	建築物の平面形状		A : B : C	適・否	
				柱、地中梁等の配置		A : B : C	適・否	
		イ	ベース	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否	
				主筋の径、本数、配置		A : B : C	適・否	
				かぶり厚さ		A : B : C	適・否	
		ウ	耐圧版	主筋及び配力筋の径、配置等		A : B : C	適・否	
				耐圧版の厚さ		A : B : C	適・否	
				かぶり厚		A : B : C	適・否	
		エ	柱	部材の形状、寸法		A : B : C	適・否	
				主筋の径、本数、配置		A : B : C	適・否	
				継手位置、定着長さ、フック		A : B : C	適・否	
				帯筋の径、配置等		A : B : C	適・否	
		オ	地中梁	かぶり厚		A : B : C	適・否	
				部材の形状、寸法		A : B : C	適・否	
				主筋の径、本数、配置		A : B : C	適・否	
				中吊り筋(2段筋)の位置		A : B : C	適・否	
				継手位置、定着長さ、フック		A : B : C	適・否	
				あばら筋及び幅止め筋の径、配置等		A : B : C	適・否	
		カ	圧接継手	貫通孔の補強筋		A : B : C	適・否	
				かぶり厚		A : B : C	適・否	
		キ	型枠	継手の位置		A : B : C	適・否	
				圧接部の外観、ふくらみ		A : B : C	適・否	
		ク	その他	各部分の寸法		A : B : C	適・否	
せき板、支保工等の設置状況				A : B : C	適・否			
型枠内の清掃、異物の除去				A : B : C	適・否			
差し筋の設置状況				A : B : C	適・否			
					A : B : C	適・否		

5	杭基礎	ア	杭芯位置の確認		A : B : C	適・否
		イ	杭の種別、径、長さ、本数等		A : B : C	適・否
		ウ	継手の溶接状況		A : B : C	適・否
		エ	杭頭のレベル、偏芯等の確認		A : B : C	適・否
		オ	杭周充填液等の配合、強度試験		A : B : C	適・否
		カ	場所打ち杭の掘削孔径、深さ等		A : B : C	適・否
		キ	場所打ち杭のかご鉄筋の仕様		A : B : C	適・否
		ク	場所打ち杭のコンクリートの配合、強度等		A : B : C	適・否
		ケ	支持層到達の確認		A : B : C	適・否
		コ	杭芯ずれによる補強筋の追加		A : B : C	適・否
6	地盤改良工事	ア	施工範囲、改良厚等		A : B : C	適・否
		イ	改良剤の添加量		A : B : C	適・否
		ウ	埋戻し、転圧状況		A : B : C	適・否
		エ	改良地盤耐力の確認		A : B : C	適・否
		オ	柱状改良の位置の確認		A : B : C	適・否
7	地業工事等	ア	栗石、砕石等の敷き均し・転圧		A : B : C	適・否
		イ	埋戻し土の転圧		A : B : C	適・否
8	その他	ア			A : B : C	適・否
		イ			A : B : C	適・否
		ウ			A : B : C	適・否
		エ			A : B : C	適・否
		オ			A : B : C	適・否
		カ			A : B : C	適・否
		キ			A : B : C	適・否
		ク			A : B : C	適・否

※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。  
 なお、否となった事項については、それに対する措置等を下記に記入すること。

工事監理者への 指摘事項	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名(検査立会者)

※ 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造及びプレキャスト鉄筋コンクリート造の建築物については、基礎構造体の確認欄は4に記入することとし、3は記入不要とする。

補強コンクリートブロック造及び組積造については、基礎構造体の確認欄は3に記入することとするが、必要に応じて4欄の該当項目についても記入すること。

# 中間検査チェックシート C1表(木造軸組構造)

※工事監理者は、太枠内のみ記入すること

検査項目	照 合 内 容		工事監理者	検 査 記 録		
				A:目視検査 B:実測検査 C:監理者報告	結果	修正
1 全体形状及び部材の配置	ア	建築物の形状		A : B : C	適・否	
	イ	柱の配置		A : B : C	適・否	
	ウ	耐力壁の配置		A : B : C	適・否	
	エ	小屋組の形状		A : B : C	適・否	
2 基礎	ア	種類の確認		A : B : C	適・否	
	イ	形状・寸法の確認		A : B : C	適・否	
	ウ	床下換気口等の設置		A : B : C	適・否	
	エ	構造体のひび割れの有無		A : B : C	適・否	
3 土台	ア	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否	
	イ	アンカーボルトの据付及び緊結状況		A : B : C	適・否	
	ウ	火打ち材の設置		A : B : C	適・否	
4 柱	ア	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否	
	イ	通し柱の設置		A : B : C	適・否	
	ウ	接合金物の設置		A : B : C	適・否	
	エ	部材の緊結		A : B : C	適・否	
5 横架材	ア	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否	
	イ	部材下部中央の欠き込み禁止		A : B : C	適・否	
	ウ	部材の緊結		A : B : C	適・否	
6 耐力壁	ア	位置		A : B : C	適・否	
	イ	筋かい	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否
			補強金物の取付け		A : B : C	適・否
			欠き込み禁止		A : B : C	適・否
	ウ	壁材	板材の厚さ		A : B : C	適・否
壁材の釘留め状況				A : B : C	適・否	
7 床組	ア	大引、根太の形状・寸法		A : B : C	適・否	
	イ	火打ち材		A : B : C	適・否	
	ウ	剛性床		A : B : C	適・否	
8 小屋組	ア	母屋、垂木の形状・寸法、部材の緊結等		A : B : C	適・否	
	イ	振れ止め		A : B : C	適・否	
9 その他	ア	地盤面からの床高さ		A : B : C	適・否	
	イ	防腐・防蟻措置		A : B : C	適・否	
	ウ			A : B : C	適・否	

※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。  
 なお、否となった事項については、それに対する措置等を下記に記入すること。


工事監理者への指摘事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名(検査立会者)

# 中間検査チェックシート C2表(木造枠組壁構造)

※工事監理者は、太枠内のみ記入すること

検査項目	照 合 内 容		工事監理者	検 査 記 録		
				A:目視検査 B:実測検査 C:監理者報告	結果	修正
1 全体形状及び部材の配置	ア	建築物の形状		A : B : C	適・否	
	イ	柱の配置		A : B : C	適・否	
	ウ	耐力壁の配置		A : B : C	適・否	
	エ	小屋組の形状		A : B : C	適・否	
2 使用材料	ア	木材、合板の種類		A : B : C	適・否	
	イ	緊結金物		A : B : C	適・否	
3 基礎	ア	種類の確認		A : B : C	適・否	
	イ	形状・寸法の確認		A : B : C	適・否	
	ウ	床下換気口等の設置		A : B : C	適・否	
	エ	構造体のひび割れの有無		A : B : C	適・否	
4 土台	ア	部材の形状・寸法		A : B : C	適・否	
	イ	アンカーボルトの据付及び緊結状況		A : B : C	適・否	
5 床構面	ア	根太の形状、寸法、配置		A : B : C	適・否	
	イ	開口部の補強		A : B : C	適・否	
	ウ	耐力壁下根太補強		A : B : C	適・否	
	エ	転び止め		A : B : C	適・否	
	オ	床材の釘留め		A : B : C	適・否	
6 耐力壁	ア	位置		A : B : C	適・否	
	イ	たて枠の配置		A : B : C	適・否	
	ウ	隅角部、交差部の補強		A : B : C	適・否	
	エ	頭つなぎ		A : B : C	適・否	
	オ	まぐさ、まぐさ受け		A : B : C	適・否	
	カ	壁材の釘留め		A : B : C	適・否	
	キ	ホールダウン金物の取付け		A : B : C	適・否	
7 小屋組	ア	垂木の形状・寸法		A : B : C	適・否	
	イ	垂木つなぎ		A : B : C	適・否	
	ウ	垂木、トラスの緊結		A : B : C	適・否	
	エ	振れ止め		A : B : C	適・否	
8 その他	ア	地盤面からの床高さ		A : B : C	適・否	
	イ	防腐・防蟻措置		A : B : C	適・否	
	ウ			A : B : C	適・否	

※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。  
 なお、否となった事項については、それに対する措置等を下記に記入すること。

--	--	--	--	--

工事監理者への指示事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名(検査立会者)

# 中間検査チェックシート C3表(鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造)

※工事監理者は、太枠内のみ記入すること

検査項目	照 合 内 容		工事監理者	検 査 記 録		
				A：目視検査 B：実測検査 C：監理者報告	結果	修正
1 全体形状及び部材の配置	ア	建築物の形状		A：B：C	適・否	
	イ	建方の精度		A：B：C	適・否	
	ウ	柱、梁の配置		A：B：C	適・否	
	エ	垂直、水平ブレースの配置		A：B：C	適・否	
	オ	剛性床の配置		A：B：C	適・否	
2 使用材料	ア	鋼材の種類		A：B：C	適・否	
	イ	高力ボルトの規格		A：B：C	適・否	
3 柱	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	溶接箇所の外観		A：B：C	適・否	
	ウ	ベースプレートの寸法、モルタル充填等		A：B：C	適・否	
	エ	アンカーボルトの径、本数、締付け状況等		A：B：C	適・否	
	オ	露出型固定柱脚のチェックシート		A：B：C	適・否	
4 大 梁	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	ボルトの種類、径、本数、締付け状況等		A：B：C	適・否	
	ウ	溶接箇所の外観		A：B：C	適・否	
5 小 梁	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	ボルトの種類、径、本数、締付け状況等		A：B：C	適・否	
	ウ	溶接箇所の外観		A：B：C	適・否	
6 柱・梁の仕口	ア	溶接箇所の外観		A：B：C	適・否	
7 床	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	梁との接合方法		A：B：C	適・否	
8 ブレース	ア	位置		A：B：C	適・否	
	イ	部材の形状・寸法及び位置		A：B：C	適・否	
	ウ	取付け方法		A：B：C	適・否	
9 その他	ア	防錆処理		A：B：C	適・否	
	イ	溶接部分の非破壊試験		A：B：C	適・否	
	ウ	梁貫通孔の補強		A：B：C	適・否	
	エ			A：B：C	適・否	

※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。  
 なお、否となった事項については、それに対する措置等を下記に記入すること。


工事監理者への 指摘事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名(検査立会者)

# 中間検査チェックシート C4表(鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造)

※工事監理者は、太枠内のみ記入すること

検査項目	照 合 内 容		工事監理者	検 査 記 録		
				A：目視検査 B：実測検査 C：監理者報告	結果	修正
1 全体形状及び部材の配置	ア	建築物の平面形状		A：B：C	適・否	
	イ	柱、梁等の配置		A：B：C	適・否	
	ウ	耐力壁の配置		A：B：C	適・否	
	エ	床版の配置		A：B：C	適・否	
2 使用材料	ア	コンクリート及び鋼材の種類		A：B：C	適・否	
	イ	鉄筋の種類		A：B：C	適・否	
3 柱	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	主筋の径、本数、配置		A：B：C	適・否	
	ウ	継手位置、定着長さ、フック		A：B：C	適・否	
	エ	帯筋の径、配置等		A：B：C	適・否	
	オ	かぶり厚		A：B：C	適・否	
4 梁(大梁・小梁)	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	主筋の径、本数、配置、中吊り筋(2段筋)の位置		A：B：C	適・否	
	ウ	継手位置、定着長さ、フック		A：B：C	適・否	
	エ	あばら筋及び幅止め筋の径、配置等		A：B：C	適・否	
	オ	貫通孔の補強筋		A：B：C	適・否	
	カ	かぶり厚		A：B：C	適・否	
5 壁(耐力壁)	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	主筋の径、配置等		A：B：C	適・否	
	ウ	継手位置、定着長さ、フック		A：B：C	適・否	
	エ	開口部の補強筋及び幅止め筋の径、配置等		A：B：C	適・否	
	オ	かぶり厚		A：B：C	適・否	
6 床・階段	ア	部材の形状・寸法		A：B：C	適・否	
	イ	主筋及び配力筋の径、配置		A：B：C	適・否	
	ウ	継手位置、定着長さ、フック		A：B：C	適・否	
	エ	開口部の補強筋		A：B：C	適・否	
	オ	かぶり厚		A：B：C	適・否	
7 圧接継手	ア	継手の位置		A：B：C	適・否	
	イ	圧接部の外観、ふくらみ		A：B：C	適・否	
8 型 枠	ア	各部分の寸法		A：B：C	適・否	
	イ	せき板、支保工等の設置状況		A：B：C	適・否	
	ウ	型枠内の清掃、異物の除去		A：B：C	適・否	
9 その他	ア	差し筋の設置状況		A：B：C	適・否	
	イ			A：B：C	適・否	

※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。  
 なお、否となった事項については、それに対する措置等を下記に記入すること。

工事監理者への 指摘事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名(検査立会者)

# 中間検査チェックシート C5表(プレキャスト鉄筋コンクリート造)

※工事監理者は、太枠内のみ記入すること

検査項目		照 合 内 容		工事監理者	検 査 記 録		
					A : 目視検査 B : 実測検査 C : 監理者報告	結果	修正
1	全体形状及び部材の配置	ア	建築物の平面形状		A : B : C	適・否	
		イ	プレキャスト部材の配置		A : B : C	適・否	
2	プレキャスト部材	ア	部材の形状、寸法		A : B : C	適・否	
		イ	製作材料の品質		A : B : C	適・否	
		ウ	鉄筋、型枠の加工・組立		A : B : C	適・否	
		エ	コンクリート打設状況		A : B : C	適・否	
		オ	養生、脱型及びひび割れ防止対策等		A : B : C	適・否	
		カ	コンクリートの所要強度		A : B : C	適・否	
		キ	プレストレスの導入		A : B : C	適・否	
		ク	製品出荷時の品質確認検査		A : B : C	適・否	
3	組立・建方	ア	組立・建方の精度		A : B : C	適・否	
		イ	接合部の仕様、接合状況		A : B : C	適・否	
		ウ	継手部分の検査		A : B : C	適・否	
		エ	ひび割れ、破損の有無		A : B : C	適・否	
4	現場施工部分	ア	鉄筋	部材の形状、寸法		A : B : C	適・否
				鉄筋の径、配置等		A : B : C	適・否
				継手位置、定着長さ、フック等		A : B : C	適・否
				かぶり厚		A : B : C	適・否
		イ	型枠	各部の寸法		A : B : C	適・否
				せき板、支保工等の設置状況		A : B : C	適・否
		型枠内の清掃、異物の除去		A : B : C	適・否		
5	その他	ア			A : B : C	適・否	
		イ			A : B : C	適・否	
		ウ			A : B : C	適・否	
		エ			A : B : C	適・否	

※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。  
 なお、否となった事項については、それに対する措置等を下記に記入すること。

工事監理者への 指摘事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名(検査立会者)

# 中間検査チェックシート C6表(組積造)

※工事監理者は、太枠内のみ記入すること

検査項目	照 合 内 容		工事監理者	検 査 記 録		
				A : 目視検査 B : 実測検査 C : 監理者報告	結果	修正
1 全体形状及び部材の配置	ア	建築物の平面形状		A : B : C	適・否	
	イ	壁の配置		A : B : C	適・否	
2 施工一般	ア	使用材料の水洗い		A : B : C	適・否	
	イ	モルタルの配合		A : B : C	適・否	
	ウ	目地の形状(芋目地としない)		A : B : C	適・否	
3 壁	ア	壁の長さ		A : B : C	適・否	
	イ	外壁の厚さ		A : B : C	適・否	
	ウ	間仕切壁の厚さ		A : B : C	適・否	
4 臥梁・床版	ア	臥梁の形状、寸法		A : B : C	適・否	
	イ	鉄筋の径、本数、配置等		A : B : C	適・否	
	ウ	鉄筋の継手位置、定着長さ		A : B : C	適・否	
	エ	鉄筋のかぶり厚		A : B : C	適・否	
5 開口部	ア	開口部幅の総和		A : B : C	適・否	
	イ	各階の開口部幅の総和		A : B : C	適・否	
	ウ	上下開口部間の垂直距離		A : B : C	適・否	
	エ	開口部相互間又は開口部と対隣壁の垂直距離		A : B : C	適・否	
	オ	まぐさの設置		A : B : C	適・否	
6 補強等	ア	壁に設けるみぞの深さ、長さ		A : B : C	適・否	
	イ	鉄骨軸組との緊結		A : B : C	適・否	
	ウ	手すり壁頂部の臥梁の設置		A : B : C	適・否	
	エ	H12 建告第 1354 号による補強		A : B : C	適・否	
7 その他	ア	型枠内の清掃状況		A : B : C	適・否	
	イ			A : B : C	適・否	
	ウ			A : B : C	適・否	
	エ			A : B : C	適・否	

※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。  
 なお、否となった事項については、それに対する措置等を下記に記入すること。


工事監理者への指摘事項等	中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名(検査立会者)

# 中間検査チェックシート C7表(補強コンクリートブロック造)

※工事監理者は、太枠内のみ記入すること

検査項目		照 合 内 容		工事監理者	検査記録		
					A:目視検査 B:実測検査 C:監理者報告	結果	修正
1	全体形状及び部材の配置	ア	建築物の平面形状		A : B : C	適・否	
		イ	耐力壁の配置		A : B : C	適・否	
2	使用材料	ア	ブロックの種別、仕様		A : B : C	適・否	
3	耐力壁	ア	耐力壁の長さ		A : B : C	適・否	
		イ	耐力壁の厚さ		A : B : C	適・否	
		ウ	補強鉄筋の径、本数、配置		A : B : C	適・否	
		エ	補強鉄筋の継手位置、定着長さ、フック		A : B : C	適・否	
		オ	補強鉄筋の基礎及び臥梁等への定着		A : B : C	適・否	
4	臥梁・床版	ア	臥梁の形状、寸法		A : B : C	適・否	
		イ	鉄筋の径、本数、配置等		A : B : C	適・否	
		ウ	鉄筋の継手位置、定着長さ		A : B : C	適・否	
		エ	鉄筋のかぶり厚		A : B : C	適・否	
5	目地・空洞部	ア	目地モルタルの状況		A : B : C	適・否	
		イ	空洞部の充填		A : B : C	適・否	
6	その他	ア	型枠内の清掃状況		A : B : C	適・否	
		イ			A : B : C	適・否	
		ウ			A : B : C	適・否	
		エ			A : B : C	適・否	
		オ			A : B : C	適・否	
※ 工事監理者は、工事監理者欄に検査結果の適否を記入し、中間検査申請書と同時に提出すること。 なお、否となった事項については、それに対する措置等を下記に記入すること。							
_____ _____ _____ _____ _____							
工事監理者への指摘事項等		中間検査	合格・不合格・合格保留	後続工程	可・不可	工事監理者名(検査立会者)	
_____ _____ _____ _____							